

究報告書第43号

E 4 -06

学校の教育目標の具現化をめざす校内研修に関する研究(2)

—— 校 内 研 修 の 内 容 と 方 法 ——

1 9 8 7 . 3

山 形 県 教 育 セ ン タ ー

研究報告書第43号(昭和62年3月刊)

学校の教育目標の具現化をめざす校内研修に関する研究(2)

—— 校内研修の内容と方法 ——

山形県教育センター

目 次

- I 研究の趣旨
 - 1. 研究のねらい
 - 2. 研究の趣旨
- II 研究の手順と方法
 - 1. 研究の手順と方法
- III 校内研修の意義と機能
 - 1. 教師と研修
 - 2. 教育目標の具現化と校内研修
 - 3. 校内研修と学校研究
- IV 校内研修の組み立ての過程
 - 1. 立案計画の基本となるT小学校のあらまし
 - 2. 校内研修項目の設定
 - (1) 校内研修項目の洗い出し
 - (2) 洗い出された研修項目の整理
 - (3) 研修項目の軽重度と形態・方法等
 - 3. 校内研修の計画
 - (1) 研修時間の設定
 - (2) 年間計画の作成
 - 4. 校内研修の評価
 - 5. 研修を進める上での留意点
- V 校内研修の改善
 - 1. 校内研修の本来の機能を発揮させる工夫
 - 2. 校内研修計画作成上の工夫
 - 3. 実践に結びつけるための工夫
 - 4. 校内研修の意欲化を図るリーダーシップ
- VI 研究のまとめと今後の課題
 - 1. 研究のまとめ
 - 2. 今後の課題

研究の概要

1 研究のねらい

学校の教育目標の具現化にかかわる校内研修の問題点をさぐり、その改善の方策を明らかにする。

2 研究の意図と経過

学校の教育目標の具現化に関する研究をはじめて5年目になる。これまで明らかにしたことは、学校の教育目標の設定や教育目標を実現するみちすじ、あるいは、教職員の協力体制づくりなどについてである。これらの研究から、校内研修のねらいや方法等に問題のあることが見いだされた。これを踏まえて、昨年度は、校内研修とは教育目標の具現化にかかわって教師の専門的な力量を高めるための研修である、という観点から校内研修の行われ方について実態調査を行い五つの問題点を指摘した。

本年度は、その五つの問題点をどのような考え方をもとにどう改善を図ったらよいのかについてその方策を考えた。あわせて、すぐれた実践校の聴き取り調査を行い、それらをもとに校内研修改善の方策を明らかにした。

3 研究の内容

(1) 教育目標の具現化の道筋にそって研修項目を設定する。

校内研修の内容はその学校の教育課題から導かれるものである。学校にとっての最大の教育課題はその学校の教育目標をどのように具現化して児童に実現を図っていくかということである。研修内容の設定はその道筋にそってなされなければならない。

(2) 校内研修における学校研究の位置づけを明確にする。

校内研修の一つとして、教師が総力を上げて意図的・計画的・継続的に進めていくものとして学校研究が設定される。このことから、学校研究は校内研修の重要な一翼をなう部分ではあるが、それが校内研修のすべてではないことを確認しなければならない。

(3) 具体的な研修計画の作成を工夫する。

研修計画には、いつ・どこで・どのような内容で行うかということを盛り込むだけでなく、それぞれの研修項目を、誰が責任を持って・どんな形態で・どのような方法で行うのかがわかるように表わすことが大切である。研修内容や方法等が明確であれば教師一人一人の毎日の授業に臨む研究的態度が意欲的となる。

(4) 研修の内容に応じて形態・方法等を工夫する。

全体研修や学年部研修などの形態については研修の内容だけでなく、学校の規模や研修対象者等にあって使い分けが必要である。討議・実習・実技・授業研究等の方法の吟味も十分に行うことが大切である。

(5) 実践に結びついた研修を推進する。

計画―実践―評価―計画のサイクルを踏まえ、その成果を次の研修に反映することによって、研修で得たことが教師一人一人の力量と児童の望ましい変容を期待することができる。

4 今後の課題

教職員の経営意識がどういう実情にあり、それを育てていくためにはどうすればよいかを明らかにする。

は し が き

教育は人なりといえます。教員の資質の向上は従前から大きな課題として重視されてきました。とりわけ最近においては、児童・生徒に見られるさまざまな問題状況、あるいは急速に変化する社会の状況等に対応して教育の改善を図っていくために教員の資質の向上が強く叫ばれてきています。

もちろん、これらの問題の生じた責任のすべてが教師にあるとはいえないにしても、一定の役割が教師に期待されているのに、その役割を十分に果たし得ないでいるという謙虚で厳しい反省に立つべきでしょう。

学校は、教育目標を児童生徒に達成させる営みをするとところす。だから教職員の一人一人が組織体の成員として、学校の経営方針をふまえ、教育目標を達成するために意欲を燃やし、協力して教育の質を高めていくことが極めて重要だと言えます。

山形県教育センターはここ数年、学校の教育目標の具現化に関する一連の研究を進めてきました。その過程の中で、校内研修と教育目標の具現化とのかかわりや校内研修の内容方法などに問題のあることが見いだされました。

そこで昨年度は、校内研修とは「教育目標の具現化に向けての教師の専門的な力量を高める研修である」という視点から調査研究を行いました。学校における校内研修の実態と現状を把握し、どんな障害やあい路があるのかを明らかにしました。

本年度は、このことをうけ、校内研修の意義とその機能を見つめながら、どのような視点から校内研修の改善を図ればよいのか、その方策を明らかにしました。

もとよりこの小冊子で校内研修に関する改善と方策を述べつくしたとはいえませんが、その意をくみとられ、実践にあたっての参考としてご活用いただければ幸いです。

この研究に協力いただいた学校並びに関係の方々に深く感謝申し上げます。

昭和62年3月

山形県教育センター所長

金 森 武

目 次

I 研究の趣旨	1
1. 研究のねらい	1
2. 研究の趣旨	1
II 研究の手順と方法	2
1. 研究の手順と方法	2
III 校内研修の意義と機能	3
1. 教師と研修	3
2. 教育目標の具現化と校内研修	4
3. 校内研修と学校研究	5
IV 校内研修の組み立ての過程	6
1. 立案計画の基本となるT小学校のあらまし	6
2. 校内研修項目の設定	8
(1) 校内研修項目の洗い出し	9
(2) 洗い出された研修項目の整理	18
(3) 研修項目の軽重度と形態・方法等	19
3. 校内研修の計画	20
(1) 研修時間の設定	20
(2) 年間計画の作成	20
4. 校内研修の評価	24
5. 研修を進める上での留意点	25
V 校内研修の改善	26
1. 校内研修の本来の機能を発揮させる工夫	26
2. 校内研修計画作成上の工夫	32
3. 実践に結びつけるための工夫	34
4. 校内研修の意欲化を図るリーダーシップ	37
VI 研究のまとめと今後の課題	39
1. 研究のまとめ	39
2. 今後の課題	40

I 研究の趣旨

1 研究のねらい

学校の教育目標の具現化にかかわる校内研修の問題点をさぐり、その改善の方策を明らかにする。

2 研究の趣旨

この研究は、1年次の研究（「学校の教育目標の具現化をめざす校内研修に関する研究」山形県教育センター研究報告書第37号）のあとをうけたものであるが、1年次は、県内の小学校における校内研修についての実態調査を行い、その結果を分析して、次の五つを校内研修にかかわる問題点として明らかにした。

- (1) 校内研修が学校の教育目標の具現化のための役割を十分に果たしていないこと。
- (2) 校内研修は、教育活動と運営活動の両面にわたって、バランスよく行われているとは言えないこと。
- (3) 全体で行われる研修の効果について疑問があること。
- (4) 効果的な研修の工夫や、研修時間の確保等に問題があること。
- (5) 校内研修についての評価が適切に行われていないので、研修したことが実践に結びつきにくいこと。

2年次は、これら五つの問題点を克服するために、どういう視点から校内研修の改善を図っていったらよいのかについての研究をすすめた。

校内研修は、すべての学校でかなりの時間をついやして行われている。ところが、これが効果的に行われているかということについては、疑問がないわけではない。その一つは、校内研修はその学校の教育目標の具現化をめざして行われなければならないものであるが、この「教育目標の具現化をめざして」という、校内研修に対する考え方がきちんと意識されているかどうかということである。二つは、教育目標の具現化は教職員によって進められるものであるから、そのための教職員の専門的な力量を高めていく研修になっているかということである。校内研修は、教師の教育活動を、教育目標の具現化に照らしてみたとき、その達成に必要な力量を高める研修に焦点を合わせて行われなければならないのに、このことが十分考えられて行われているのかということである。三つ目は、校内研修と学校研究とのかかわりが明確にとらえられて運営されているのかということである。

学校研究は校内研修に含まれるという関係にあるのに、これらが、同じだとする考え方がある一方校内研修と学校研究は全く別個のものであるとする考え方もある。

前者は、学校研究を行うことが、即教育目標の具現化をめざすことになるという考え方であるが、学校研究課題が設定される過程を考えると、学校の研究課題は、その年度に児童の全面発達（知・徳・体）を目ざす重点目標の一つとして掲げられるものに過ぎない。つまり、学校研究は、教育目標の具現化をめざす必要条件ではあるが十分条件ではないということである。後者は、そもそも校内研修の果たす役割について、理解が不十分だけでなく、限られた教師集団のエネルギーと時間を効率よく

研究担当者

指導主事	工 藤 清 二
"	梅 津 庄四郎
"	安 藤 昭 郎
"	菊 地 清

使う上でもいろいろむずかしさが出てくる。

このような問題にも吟味を加え、さらに、教育目標の具現化をめざす校内研修の本来の意義に立ちかえって、先にあげた五つの問題点を解決するために、具体的な作業をとおして、その改善策を明らかにしようとするものである。

II 研究の手順と方法

1 研究の手順と方法

「校内研修とは、その学校が掲げている教育目標の具現化にかかわって、教師の専門的力量を高めるために行う研修である」という視点から、モデルとするT小学校を設定し、その学校における望ましい校内研修の姿を具体的な形として明らかにし、さらに、すぐれた実践校の聴き取り調査を行い、それを解析し、問題点の解決の方策をまとめた。以下はその手順と方法である。

- (1) モデルとするT小学校を設定する。
- (2) 校内研修の意義と機能について吟味する。
- (3) 校内研修課題・内容等の設定の手順と方法について検討する。
- (4) T小学校について、(3)にしたがい校内研修課題の設定作業をすすめる。
- (5) 校内研修改善の観点から五つの問題点に検討を加え、研修計画を作成する。
- (6) すぐれた実践校に対して、聴き取り調査を実施し、解析を加える。
- (7) 校内研修改善の方策をまとめる。

研究協力校

山形市立宮浦小学校
天童市立長岡小学校
大江町立七軒西小学校
尾花沢市立高橋小学校
舟形町立舟形小学校
米沢市立東部小学校
長井市立長井小学校
鶴岡市立朝陽第三小学校
酒田市立泉小学校

III 校内研修の意義と機能

1 教師と研修

教師は、自らの資質・能力を高めていく研修をぬきにしては、その職責を果たしていくことはできない。教師の職責とは、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい子どもの育成にあり、この職責の遂行のために、教職員全体の真剣な、しかも絶えざる研修が要請されるのである。

ここで、教師として必要な研修とは何かについて考えてみると、それは、次の三つをあげることができる。

- (1) 専門性の向上をめざすもの
- (2) 使命感の高揚をめざすもの
- (3) 人間性の向上をめざすもの

これらは、子どもたちを教え導く教師として高めなければならない資質に他ならない。

(1)はいうまでもなく、教師という職務に関しての専門性についてであり、それは学習指導、各教科の内容、生徒指導や評価、また、学年・学級経営、学校経営などいわゆる教師としての職能にかかわるものについての研修である。

(2)は、教師は次代の国民を育てるという重い使命を負っているものであり、その責任の大きさは計り知れない。正しい教育観と強い使命感に支えられてこそ、この崇高な任務は果たされるものと思われる。

また、(3)は、教師は子どもの全人格に働きかけて調和のとれた健全な発達をうながす役目を持つものである。そのためには、まず教師自らが人間として尊敬されるものでなければならない。豊かな情操、ひろい心は、教師に求められるべきものであり、子ども達の悩みや痛みがわかる感性豊かな教師こそ真の教師としてのあるべき姿であろう。

ところで、教師は、職務を遂行するために、絶えず研修を行っているが、その行われ方をみると実にさまざまな方法と形態で行われていることがわかる。

まず、自らが目的をもって自分自身で行う研修がある。集団の中で行う研修がある。また、研修が行われる場所を考えてみると、学校の中で行われるものと校外で行われるものとにわけることができる。校外で行われるものの中には、教育センター等の教育機関で行われるもの、あるいは、いろいろな教育研究団体が行う各種研究会等がある。さらに、研究のテーマを同じくする同好の人たちが集まって行う研究などもある。

校内で行われる研修も、自分がその職務を遂行する中で行われる自己研修、学年会や専門部などで行う小集団研修、さらには全教職員で行う全体研修など、非常に多様である。特に、個人が職務遂行の中で行う研修は、教師が行う研修としては大きな比重を占めるものであり、職能成長の上では重要なはたらきをなすものである。これらの研修は、すべて前に挙げた三つの目的を旨ざして行われているものである。

2 教育目標の具現化と校内研修

校内研修とは、学校の教育目標の具現化にかかわって教師の専門的力量を高めるために行う研修である。子ども達に学校の教育目標をどう具現化させていくかを考えるとき、まず、具現化のための具体的なすじみちと方法を見定めることである。次には、その役割を担うことになる教職員の力量つまり教育力の実情を正確に把握することである。そして、もし具現化をめざす教育活動や運営活動を展開するに当たって、専門的な力量を高めるのに必要な研修があるとすれば、それを充足することが不可欠となる。校内研修はまさに、そこに浮かび上がってくる研修を指しているのである。

このことを例をあげて具体的に述べてみよう。

ある小学校の教育目標の一つに「確かな読みとりで考えを深める子ども」というのがある。学校では、この目標の具現化を図るために、まず目標を分析して具体目標をたてる。それが、

- ① 読みとる力をつける子ども
- ② すじみちをたてて考える子ども
- ③ 自分の考えを発表できる子ども

の三つである。

次に、教育目標具現化のための全体的な計画の中で行われてきたこれまでの教育実践の経過と、それが子どもの上にあらわれてきている成果などをもとに、年度重点目標を設定する。それが「すじみちをたてて考える子ども」となった。

そうすると、その重点目標の具現化を図っていくためには当然、子どもにその発達段階に合った論理的な思考力を育てていくための指導が、日常的教育活動の中で重視されなければならないことになる。

ところで、その教育を担う教師がすべて経験豊かで力量のある集団で、子どもに論理的な思考を育てていくために、毎日の授業の中でどう指導すればよいかがわかっており、重点目標の達成に向かってそれぞれ力を尽くしていける状態にあるならばそれで問題はない。ところが、教員の構成をみると、教師としての経験にも大きなちがいがみられるし、また、教科指導についてもそれぞれ得手不得手がある。さらに、子どもの発達段階に応じてその思考能力が、各教科の学習においてどのような特徴をもってあらわれてくるのか、それを望ましい方向に育てていくにはどうすればよいのか、などについても教師によってとらえ方や力量にちがいがみられるはずである。教師集団の力量の高まりがないとすれば、具体目標「すじみちをたてて考える子ども」の具現化を図っていくことは、おぼつかないであろう。ここに「すじみちをたてて考えることができる能力を育てるための指導法」という校内研修課題が設定されることになる。そして、この課題を解決するために、教師の力量の実情に合わせて、具体的な研修内容が考えられてくるということである。

3 校内研修と学校研究

1において、教師の研修について述べた。2において、校内研修の意義と果たすべき役割について述べた。

ところで、いわゆる「学校研究」と「校内研修」の関係について混乱がみられるようである。それは、「学校研究を一生懸命やっているから他の研修は必要がない」とか「学校研究の他に校内研修を行う時間は到底見い出せない」などの意見がよくきかれることからわかることである。そこで、教育目標の具現化をはかることに關しての学校研究と校内研修の関係を明確にしておく必要がある。

- ① いわゆる学校研究とは、その学校の教育課題を解決するために、教科・領域等の面に焦点をあて、主として指導方法の開発を目ざして、教職員の総力を集めて行われる教育実践研究をいう。そして、研究の原点となる学校の教育課題とは、教育目標が具体化された形で表わされる重点目標に他ならないはずである。このことは、教育目標の設定過程とその後の具体化過程を考えれば当然である。また、学校研究を望ましい姿で進めていくためには、それを担う教職員の力量を高めることが当然必要となってくる。学校研究と研修とは、表裏の関係で進められることとなる。
- ② そうすると、校内研修と学校研究とは、学校の教育目標の具現化をめざして行われる、ということと、そのための教師の力量の充実をはかるために行われるという点では一致する。即ち、学校研究の研修の部分は校内研修に含まれるという包摂関係にあるといえる。
- ③ 学校研究は、校内研修の一翼を担う重要な部分ではあるが、決して同じものとはならない。それは両者のねらいと設定過程からみても明らかなことである。
- ④ 以上のことから、学校経営の主たる任務は、児童生徒に、教育目標の具現化をはかっていくことにあることから、学校研究を行うことだけで研修が十分であるとはいえない。子どもの知・徳・体を包括した全人格の陶冶を目ざして行う校内研修をより重視することが大切になってくる。

Ⅳ 校内研修の組み立ての過程

教育目標の具現化にかかわる校内研修の課題及び内容等はどのようにして設定されるのだろうか。このことについての基本的なみちすじとして、一つはその年度に教育目標をどう具現化しようとするのか、ということ、もう一つは、その担い手となる教職員の力量の実態はどうか、ということを明らかにし、この二つを分析し、つぎ合わせることによって、必要となる研修を設定するということになる。具体的には次のような手順で行った。

- (1) 教育目標を具体化して本年度の重点目標を設定する。
- (2) 重点目標具現化にかかわる教職員の力量の状況を把握する。
- (3) (1)と(2)をつき合わせて研修課題と学校研究主題を設定する。
- (4) 具現化をはかるための具体的な計画にもとづいて、教職員が研修を必要とする内容(項目)を洗い出す。
- (5) 研修の効率化を図るために研修項目を集約し軽重をつけ、時間・形態・方法を考える。
- (6) 日課表をもとに、研修時間を設定する。
- (7) 年間計画及び評価計画を設定する。

以上のことを踏まえて、T小学校の校内研修について具体的に展開してみた。

1 立案計画の基本となるT小学校のあらまし

		具 体 目 標
(教育目標1)	確かな読みとりで、考えを深める子ども。	— 読みとる力をつける子ども ※すじみちをたてて考える子ども — 自分の考えを発表できる子ども
(教育目標2)	最後まで走りぬいて、心と体をきたえる子ども	— すすんで運動する子ども ※最後まで走りぬく子ども — 健康に気をつける子ども
(教育目標3)	力をあわせて、みんなのために働く子ども	— なかよく仕事をする子ども ※他人に迷惑をかけない子ども — 美しい心をもつ子ども (※印本年度重点目標)

(1) 経 営 方 針

- ① 教育目標の具現化を目指すために、日常的教育活動及び運営活動の活性化をはかり、教職員の協力体制を整える。
- ② 教職員の経営意識を高め、創意工夫をこらした主体的な実践活動をすすめる。
- ③ 学校と家庭及び地域との連携を強め、教育環境の整備をはかるとともに、児童愛にもとづく全人教育の高揚を目指す。

- ④ 教育実践を深めるために、教職員の教育的力量の向上に意を注ぎ、特に若い教職員の指導力の充実を図るために、研修活動を重視する。

(2) 本年度の重点目標

- ① 確かな学力をつける。
 - ・すじみちをたてて考えることのできる能力を育てるために指導法を研究し実践する。
 - ② たくましい気力と体力をつくる。
 - ・目標を決めて練習を行い、最後まで走りぬくことのできる心と体力を育てるために、日本一周マラソン(持久走)を実施する。
 - ③ 望ましい心を育てる。
 - ・他人に迷惑をかけないように行動しようとする心と態度を育てるために道德教育に力を注ぐ。
- ④ 校内研修の課題
- ア すじみちをたてて考えることができる能力を育てるための指導法(学習指導法)
- イ 目標を持って、最後までやり遂げようとするたくましい心と体力を育てるための指導法(体育・総則体育・道德)
- ウ 「道德」の指導及び道德教育
- エ 学校研究
- ・すじみちの通った考えができる子どもを育てるための指導法
—— 説明文の読みとり、文章題の解き方の指導を通して ——

(3) 教 職 員 の 構 成

			○男子 ○女子						
			本 校 勤 務 年 数						
年令別構成			1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
校 長 1 教 頭 1 教 諭 14 養護教諭 1 計 17 男 8名 女 9名	55～60才	3名	○	○	○				
	50～54	2		◎	○				
	45～49	1				○			
	40～44	0							
	35～39	1					◎		
	30～34	3	◎			◎			○
	25～29	4	◎	◎	◎			○	
	22～24	3	◎	○	◎				
計			17名	4名	4名	4名	2名	1名	1名
学級数13(名学年2学級 特殊学級1学級)児童数381名									

本校教職員の構成をみると、20才代が41%を占めている。中堅となる30才代後半から40才代がわずか2名しかいない。

男、女の比については、バランスがよくとれている。

本校勤務年数をみると1年目から4年目が全体の82%となる。ベテラン層と若年層の両極に分かれた構成になっているので、学校経営に当たっては共通理解をもとにした協力体制づくりと研修を活発にする。特に若手教員の教育力の向上に意を注ぐ必要がある。

2 校内研修項目の設定

(1) 校内研修項目の洗い出し

T小学校の教育目標、経営方針、重点目標、教職員の構成をうけて、具現化を目指すための校内研修の課題をどう設定すればよいか、またどのような研修が必要か、を明らかにしなければならぬ。そのためには、具現化をめざす教育活動、運営活動両面から研修項目を導き出す必要がある。教育活動の中では学年、学級、教科、道徳、特別活動、ゆとり等の観点から、また運営活動では教育活動を支える観点から研修項目をまとめた。さらに研修項目を洗い出すための留意点として、なぜ研修が必要なのか、その必要性を吟味し、さらに、研修項目に応じた方法、形態にも検討を加えた。以上の観点から表にまとめたのが次の校内研修項目の洗い出し表である。

校内研修項目の洗い出し表

教育目標	具 体 目 標	教 育 課 程 （教科・道徳・特別活動等）	計画への具体化	具体的活動	研修の必要性	研修項目	方法と形態
			学年・学級経営				
教育目標 へ確かな読みとりで考えを深める子ども	具 体 目 標	教 育 課 程 （教科・道徳・特別活動等）	・読み書きの基礎的な力をつける ・計算力をつける ・読書の習慣を育てる	・週をきめて朝自習の時間に一日10字漢字練習計算問題10題をする ・良書を紹介する ・学科に応じた目標ページ数を決めさせて期間を定めてより数多をする	・こどもに意欲をもたせ目標に向かわせるための適切な刺激の与え方、方法についての研修が必要である	・漢字練習や計算練習の意欲づけとその方法 ・読書に親しませるための効果的指導法について	・学年部会で検討する ・若手層の教師を対象として国語主任に講義してもらう
			〔教科〕文章や図形を正しく豊かに読みとることができる力を育てる 国語 文を正しく豊かに読みとらせる 社会 社会事象を正しくとらえさせる 算数 文章題で問われている数量関係を正しく読みとらせる 理科 観察実験を通して自然の事象を正しくとらえさせる ・道徳 自分の生活体験と対比しながら資料を豊かに読みとらせる	・読解力をつけることに指導の重点をおく ・社会のいろいろな仕組みや現象を正しく見させる活動を重視する ・数量関係を正しくとらえることの指導で特力を入れる ・自然観察や実験を重視する ・資料を豊かに読みとらせるために情景図やペーパーパートを準備するなどの工夫をする	・叙述に即して正確に文章を読みとることのできるようにさせる指導の研修が必要である。 ・社会事象を正しくとらえさせる視点についての研修が必要である ・数量関係を正しくとらえさせるための指導の工夫についての研修が必要である ・観察実験の方法や指導のあり方についての研修が必要である ・道徳において資料を豊かに読みとらせるということとはどのようなかについて研修が必要である	・説明文や文学的作品的読解指導 ・社会科学習における資料収集や実地見学等の指導法 ・文章題の指導法 ・観察・実験の指導法 ・資料の使い方・生かし方	・不得手な教師を対象に国語主任から講義してもらう ・学年部会で検討会をもつ ・授業をもとにして全体研修をする ・不得手な教師を対象として理科主任の指導で練習をする ・道徳主任の提議により全体研修を行う
			・国語・算数の学力の向上を図る ・図書館を整備し読書指導に力を入れる	・国語・算数の基礎的・基本的事項について検討する ・読書時間の設定をする ・図書を整備・新刊図書購入の選定、本の修理を行う ・魅力ある図書室の整備につとめる	・基礎・基本の考え方についての理解が必要である ・子どもにどのような本をどのように読ませるか、その指導法についての研修が必要である	・教科における基礎的・基本的事項について ・図書館の望ましい経営について ・読書を好きにさせる方法	・国語・算数の教科主任の提案により全体研修 ・図書主任のプリントをもとに学年部会で検討する

教育目標 （確かな読みとりで考えを深める子ども）	具 体 目 標 （すじみちをたてて考える子ども）	教育課程 （教科・道徳・特別活動等）	計画への具体化	具体的活動	研修の必要性	研修項目	方法と形態	
			学年・学級経営	・自分の考えたことを順序立ててまとめるようにさせる	・「私の意見」という題で3分間スピーチを朝の会でやる ・朝の会や終わりの会等での話し合いでメモをとるようにする	・話題の見つけ方やまとめ方はどうすればよいのかについての研修が必要である	・発達階梯に応じた3分間スピーチの内容や方法について	・国語部会の提案により学年研修をする
			国語	読みとったことをもとに順序立ててまとめることができるようにする	・読みとったことをもとにそれを順序よく整理してまとめられるようにする	・序論・本論・結論あるいは起承転結などの文の構造に注意して読みとる研修が必要である	・説明文や文学的作品を順序立ててまとめる指導	・教科主任を講師として得意教師や若手教師に講義をする
			社会	社会現象をすじみちを立てて考えることができる	・身近な社会、歴史的事実や因果関係がよくわかるような指導に重点をおく。また地図や図表などを手掛かりとして順序立てた考えができる指導をする	・身近な社会の仕組みや歴史上の事実の因果関係や地理的な特徴と産業などについての研修が必要	・資料の整理と活用のしかた ・学年に応じた社会の仕組みの理解の教材	・教科主任から典型的な例について得意教師に対して講義をする
運動	具 体 目 標 （すじみちをたてて考える子ども）	教育課程 （教科・道徳・特別活動等）	算数	読みとった数量関係をもとに順序よく解くことができる	・線分図やテープ図を手掛かりとして考えさせる指導に重点をおく	・線図や線分図をどうする場合にどのように使ったらよいのかについての研修が必要である	・線図や線分図を使ってすじみちを立てて考えさせる指導	・教科主任を講師として得意教師や若手教師と一緒に演習する
			理科	観察実験したことをもとにすじみちを立てて考えさせるようにする	・観察実験の結果から仮説をもとにすじみちを立てて考えさせるようにする（ノート利用）	・観察実験のデータを基に筋道をどのように使って筋道の立った考え方をさせたらよいのかの指導の仕方の研修が必要である	・観察実験ノートの活用	・理科部会の提案による学年研修
			道徳	読みとったことに照らしてこれまでの自分の生活をふりかえらせる	・読みとったことをもとに今までの自分の生活を作文にまとめたり話し合いを深めることができるようにする	・正義・公正など道徳的価値の内部的自覚化を助ける研修が必要である	・正義・公正の資料の深い読みとりと指導	・道徳主任を中心に指導案作成を通して全体研修を行う
			特別活動	不満・不満を抱く問題についてそれらをすじみちを立てて考えることができるようにする	・問題解決に向けて自分の考えをしっかりとつとがでるようになる	・学級会活動（特に話し合い活動）における教師の適切な指導のあり方について研修する必要もある	・学級会活動のねらいとその指導について	・特活主任の提案をうけて全体研修を行う
運動	具 体 目 標 （すじみちをたてて考える子ども）	教育課程 （教科・道徳・特別活動等）	運動	・各教科で使う教材教具の保管	・各教科で使う教材教具の使いやすさの整理・保管を行う	・教科用学年毎の教材教具の整理・保管は学習を効果的にすすめるために重要である	・使いやすさの教材教具の整理保管について	・教科主任
			活動	・理科室の施設・設備の充実	・観察実験用具等の整備と保管（いつでも使いやすようにする）	・得意教師は観察実験器具に一種の不安を持っているのでこれらについての研修が必要である	・使いやすさの観察実験用具の整備・保管について	・教科主任

教育目標 （確かな読みとりで考えを深める子ども）	具 体 目 標 （自分の考えを発表できる子ども）	教 育 活 動				
		学年・学級経営				
		・自分の考えたことをわかりやすく発表できるようにさせる ・他のひとの発表を上手に聞く腹度を育てる ・どんなことでも話せるふんぞりをつくりをする	・発達段階に応じた「話し合い」の指導と重点をおく ・他のひとの発表を笑ったり冷やかしたりしないでお互いに高め合うようにする	・「話し合い」の約束ごとはどうあられよいのか、その指導についての研修が必要である ・若い教師の中には思いやりのある学級をどうつくればよいかわからないでいる者が多い	・発達段階に応じた「話し合い」の約束ごとにしつて ・思いやりのある学級づくりについて	・校内講師のプリントにより学年部研修をする ・学年主任の講義にもとづいて学年部研修をする
		教育課程 （教科・道徳・特別活動等）				
		〔教科〕考えたことを人にわかるようにはっきり発表することができ人の発表を聞いて自分の考えを深められるようになる 国語 まとめたことを聞き手にわかるように発表させる 社会 社会事象を正しくとらえすじみちを立てて考えそれらのことについて順序立てて発表できるようにさせる 算数 考えたことを順序立てて発表できるようにさせる 理科 自然現象を正しくとらえ観察実験を通して筋道を立てて考え要領よく発表できるようにさせる ・道徳 話し合いを通して自分の考えを一層深めることができるようにする ・特別活動 学校生活における諸問題を解決するために進んで発表に参加させる	・主語と述語と気をつくばりながらきちんとした話し合いをして発表できるようにする ・歴史的事実や因果関係あるいは世図や区表から読みとれることから正確しくわかり筋道を立てて自分の考えを発表できるようにする ・絵図や線分図を活用してわかりやすく説明できるようにする ・本音で話し合いがけできるようにする ・学校生活の諸問題を話し合いみんなで解決させるようにする	・表現力を高めるための指導の工夫について研修の必要がある ・児童の実態に合った資料提示の留意点についての研修が必要である ・数量関係を絵図や線分図で表わしたことについて分かりやすく発表させるための研修が必要である ・観察実験のデータをもとにこれをどのように使って筋道の立った考え方をさせたらよいかの指導の仕方の研修が必要である ・本音をいかにださるかについてどのように工夫すればよいのかについて研修が必要である ・学級会活動と学級指導の違いについて理解が不十分である	・読みとったことを筋道を立てて相手はわかるように話す指導 ・資料を正しく読みとり順序立ててわかりやすく発表できる指導について ・絵図や線分図を使ってすじみちを立てて発表させる指導 ・観察実験データを基にこれを用いて筋道の立った考え方をさせたらよいか ・本音を出させる道徳の授業について ・学級会活動のねらいと指導のあり方について	・言語部会の提案による学年部研修 ・社会科部会の提案による学年部研修 ・算数部会の提案による学年部研修 ・理科部会の提案による学年部研修 ・道徳主任を中心に指導案作成を通して全体研修を行う ・特活主任の提案をうけて全体研修を行う
		運営活動				
・多くの子どもにも発表の機会を設定する ・「思いやりのある学級づくり」についての実践交流の場を設定する	・音楽・朗読・意見発表・集会活動を行う ・創立記念日に「私の意見」の発表の時間を設ける ・定例職員会議で「私の学級づくり」発表の時間を設定する	・発表の場をどのように設ければ発表力がつくかの研修が必要がある ・思いやりのある学級づくりはどうしたらよいかについて若い教師から研修の要望がある	・朝会の時間を利用しての発表の場をどう充実するか ・学級経営について（実践交流）	・専門部の提言により全体研修の場で確認する ・各教職員の委員会・協議のとき発表し実践を交流する		

教育目標 （最後まで走りぬいて心と身体をきたえる子ども）	具 体 目 標 （最後まで走りぬいて心と身体をきたえる子ども）	教 育 目 標 （最後まで走りぬいて心と身体をきたえる子ども）				
		学 年 ・ 学 級 経 営	計 画 へ の 具 体 化	具 体 的 活 動	研 修 の 必 要 性	研 修 項 目
		学 年 ・ 学 級 経 営	・外に出てすんで運動をさせるようにする ・目あてをもって身体をきたえるようにさせる	・外に出て運動をする朝：日本一周マラソン 中間休み：業間体育 放課後：すんで運動する（なわとび 鉄棒 水泳等） ・一人一人目標をしっかり持つ	・すんで運動させるためにはどんな刺激をあたえたらよいのかの研修が必要である ・苦手な子への指導はどうすればよいのかの研修が必要である。	・自らすんでやろうとする意欲づけとその方法について ・目標カードの作成のしかたと個人の目標のめたせ方 ・苦手な子どもの指導法 ・得意な先生から実技を習う ・体育主任から提案を受け全体で討議
		教 育 課 程 （教科・道徳・特別活動等）	・教科…体育 目あてをもたせて積極的に運動するようにさせる ・道徳 より高い目標を立ててその達成に努める態度を育てる ・特別活動 〈児童活動〉 遊びに必要な約束を決めさせるようにする 〈学校行事〉 特色運動関係の行事に積極的に参加するようにさせる	・それぞれの運動について一人一人目あてをもって取り組む ・運動カードの作成 ・向上心・積極性に関する心情を豊かにし内面的な自覚化を図る ・学級会活動や児童会活動において望ましい遊びの約束がつけられるようにする ・運動会・持久走・水泳・スキー大会へ目的をもって積極的に参加する	・いろいろな運動種目に積極的に参加させるために研修が必要である ・意欲化を図る運動カードのあり方と提示の仕方についての研修が必要である ・道徳時間の指導法についての道徳理解と授業のめち方についての研修が必要である ・どんな遊びがありその内容や約束とは何かあまいび把握されている面がみられるため研修が必要である ・いろいろな運動の基本的なルールや内容について知識面からの理解が深くなっていくため実技研修が必要である	・体育主任から提案を受け学年部で検討する ・体育部より提案し学年部で検討する ・実技研修 ・道徳主任を中心に道徳の授業を作成し授業をすすめる ・望ましい遊びの約束とはどのようなのか ・約束を守った上手な遊び方をさせる手立て ・短距離走、長距離走、ハードル走や水泳スキーの実技研修 ・体育主任を中心とした実技演習
		運 営 活 動	・安全な運動ができるように運動する箇所の点検と施設・設備の充実を図る	・グラウンド、体育館、自然観察コース等の施設・設備の点検と充実を図る ・月はじめに「安全点検日」を設ける	・運動で使用する箇所の安全点検と施設・設備の充実がどうかの研修が必要である	・施設・設備の充実と安全な利用はどうか ・専門家の提案による全体研修

教育目標 （最後まで走りぬいて心と身体をきたえる子ども）	具 体 目 標 （最後まで走りぬいて心と身体をきたえる子ども）	教 育 目 標 （最後まで走りぬいて心と身体をきたえる子ども）				
		学 年 ・ 学 級 経 営	計 画 へ の 具 体 化	具 体 的 活 動	研 修 の 必 要 性	研 修 項 目
		学 年 ・ 学 級 経 営	・最後まで走りぬく気力を育てる	・中間休み・放課後に「日本一周マラソン」を継続実施する	・実施にあたってその方法はどうあればよいのか また、学校の年間計画にどう位置づけたらよいのかの研修が必要である ・あきないでやり通させるための指導方法を知るための研修が必要である。	・「日本一周マラソン」と業間体育の年間指導計画と実施方法 ・体育部の提案による全体研修を行う ・あきないでやり通させるための意欲づけ
		教 育 課 程 （教科・道徳・特別活動等）	・教科…体育 体力・体力の向上をめざす ・道徳 目標実現に向かって最後まで努力する態度を養う ・特別活動 学校行事に積極的に参加させる	・児童の体力・体力を調べ、全国平均・県平均より低い種目について重点指導する ・不とう不屈・向上心にかかわる心情を豊かにするため、価値について大切に扱う ・運動会、マラソン大会 持久走、水泳、スキー大会等の学校行事に意欲をもって参加させる	・実施から、持久力をつける指導はどうあればよいのかの研修が必要である ・道徳の時間の指導法と持久力・耐性などの演習を通して研修する必要がある ・いろいろな運動の行事に教師自ら参加する体制をつくるための研修が必要である ・実施にあたっての注意諸問題を知るための研修が必要である ・意欲をもたせるための学校行事の見直しを行うための研修が必要である	・持久力を育てるための指導のあり方 ・重点項目を重視した年間指導計画の作成について ・不とう不屈・向上心を育てる指導はどうあればよいのか ・道徳主任を中心に指導案の作成を行う ・学校行事にすすんで参加させるための指導のあり方 ・各校務分掌での話し合いの結果をもとにして教務主任から提案し全体討議を行う
		運 営 活 動	・運動用具室の整理・保管を行う ・運動関係で使う施設・設備の充実を図る	・体育の授業等で使い易いように教材・教具を整理・保管する ・運動用具室・体育館・グラウンド等の施設・設備の充実を図る	・どのような教材・教具が必要でありどう整理しておれば使い易いのかの研修が必要である ・のぞましい教材・教具のあたえ方を知るために研修が必要である	・使い易い運動用具室の管理について ・体力向上のための道具の自作 ・体育部の指導により全体研修を行う ・全職員のアイディア発表

教育目標 （最後まで走りぬいて心と身体をきたえる子ども）	具 体 目 標 （健康に気をつける子ども）	教 育 目 標 （最後まで走りぬいて心と身体をきたえる子ども）				
		学 年 ・ 学 級 経 営	学 年 ・ 学 級 経 営	学 年 ・ 学 級 経 営	学 年 ・ 学 級 経 営	学 年 ・ 学 級 経 営
		計画への具体化 ・健康に気をくばるようにさせる ・安全な生活を心かけるようにさせる	具 体 的 活 動 ・給食での好き嫌いをなくすようにする ・汗のしまつ、うかえ、手洗いなど基本的な生活習慣を身につけさせる ・遊びの約束をきめるようにする ・交通安全の規則をまもる	研修の必要性 ・学年に応じた基本的な生活習慣における指導のすめ方がある教師に十分理解されている、面談みられるので研修が必要である ・いろいろなルールについて学年に応じた指導のすめ方がある、いまいちでありその研修が必要である	研 修 項 目 ・基本的な生活習慣を育てるための指導と家庭との連携 ・交通安全、校外での遊びの安全について	方法と形態 ・生徒指導部より提案し全体で共通理解をはかりPTAとの連携を深める ・同 上
		学 年 ・ 学 級 経 営 教育課程 （教科・道徳・特別活動等） ・教科 体育：健康・安全に留意して運動させる 家庭 （5～6年） 保健体育的な着方や食物の栄養について関心をもつようにさせる ・道徳 健康に留意し、危険から身を守る態度を育てる ・特別活動 健康・安全な生活ができるようにさせる	・安全に運動させるためのきまりを作り、それを守るようにする ・運動する場所の整備や用具の安全に気を配る ・気温や季節に応じた日常着の着方や衛生的な着方をする ・栄養素やそのはたらきを知り、好き嫌いのないようにする ・生命尊重、健康安全、規則に関する心情を豊かにし、内面的な自覚化を図る ・学習指導 健康・安全指導に関する指導を重視する ・学校行事 交通安全教育の内容充実を図る	・どのような指導をすれば事故を防ぐことができるかについての研修が必要である ・季節に合った着方や食物の栄養などに関心をもたせる研修が必要である ・道徳の時間の指導法と共通理解を得るための研修が必要である ・風邪ひきや怪我が多いという児童の実態から研修が必要である ・学級の住み慣れと交通量の増大、それともなう事故の多いことから研修が必要である	・運動するにあたっての安全面への配慮 ・季節や場面に応じた服装および食物の栄養などに関心をもたせる工夫 ・生命の尊さや健康のありがたさについての指導のあり方 ・日常生活のし方と心めかけについての指導のあり方 ・交通安全指導と交通安全教室のあり方	・体育主任の提案により全体研修を行う ・家庭科主任を中心に高学年部会で話し合う ・道徳主任を中心に指導案を作成し演習を行う ・看護教諭の提案による全体研修を行う ・交通安全視察、みどりのおぼろの指導を行う
		運 営 活 動 ・健康安全に関する施設・整備の点検と充実	・水飲み場、足洗い場、便所等校舎外の清潔を保つ ・校舎・校地内における施設および児童の遊びの場の安全点検 ・校外における児童の遊び場や通学道路等の安全点検（他の機関への働きかけ） ・校外子ども会への指導をする	・安全点検のし方や方法を確立するために研修が必要である	・安全点検のねらいとその仕方	・保健主任の提案により全体研修を行う

教育目標 （力をあわせてみんなのために働く子ども）	具 体 目 標 （なかよく仕事を する子ども）	教 育 活 動	教育課程（教科・道徳・特別活動等）				
			学年・学級経営	具体的活動	研修の必要性	研修項目	方法と形態
			・働くこと、なかよく仕事をすることの大切さをわからせる ・給食の班活動をがんばらせる	・実習田や実習畑・花壇を耕す ・たてわり清掃をおこなう ・月一回実施される「愛校日」の活動に積極的に参加する ・給食の準備や後片付けを協力して手際よくできるようにする	・勤労体験学習や奉仕活動の意義とその指導方法についての研修が必要である	・勤労体験学習・奉仕活動の意義と指導法について ・実習田や実習畑・花壇の作り方や手入れの仕方について	・教務主任の提案により全体研修を行う ・得意教師のプリントにより自己研修する
			・各教科協力して学習するようにさせる ・道徳協力することのたいせつさ、みんなのためになる仕事の大切さわかる心情を育てる ・特別活動学校を大切にしている態度を育てる ・ゆとりの時間勤労体験学習を通して協力して働くことの大切さを体得させる ・清掃自分から仕事を見つけてやろうとする態度を育てる	・協力して学習を進められるようにする。特にグループ学習と望ましいリーダー育成に重点をおく ・明朗誠実、親しみ、向上心、信頼友情、勤労の価値を大事に指導する ・愛校日の活動に積極的に参加する ・みんなと協力しながら実習田・実習畑の作業をする ・上学年や下学年と一緒に清掃をする（たてわり清掃）	・グループ学習の指導法やリーダーの育成について特に若年層に研修させる必要がある ・協力することやみんなのためになる仕事の大切さわかる心情をどのように指導すればよいのかについて研修する ・愛校日の活動を通してどんなことをねらうのかを共通理解する必要がある ・勤労体験学習の意義、指導法についての研修が必要である ・栽培や消毒の仕方など収穫までの技能を研修する必要がある ・異年齢集団の意義とその生かし方についての研修が必要である	・グループ学習とリーダーの育成について ・協力することや仕事の大切さわかる心情を育てる指導法について ・愛校日の活動のねらいについて ・勤労体験学習の意義と指導法について ・作物の収穫までの仕事とその方法について ・たてわり清掃のねらいとその指導について	・校内教師を講師として若年層教師を擁護して研修する ・道徳主任を中心に全体研修する ・教務主任のプリントによる自己研修をする ・教務主任の提案により全体研修をする ・地域講師を呼んで全体研修をする ・清掃主任の資料により自己研修をする
			・実習田や実習畑の学習をゆとりの時間にこなす ・学級園や花壇の整備をする	・ゆとりの時間に勤労体験や奉仕活動の場を多く設定する ・学級園の競争をする（学期ごと）	・ゆとりの時間に勤労体験学習や奉仕活動をどのように運営するかを研修をする必要がある ・いつどんな花が咲くか、どう育てればよいのか知りたい	・ゆとりの時間の運用について ・学級園や花壇の経営について	・専門家の提案により全体研修をする ・理科主任のプリントにより自己研修をする

教育目標 （力をあわせてみんなのために働く子ども）	具 体 目 標 （他人に迷惑をかけない子ども）	教 育		方法と形態			
		学 年 ・ 学 級 経 営	活 動				
					計画への具体化	具体的活動	
		学 年 ・ 学 級 経 営	- 自分のことは自分でできるようにさせる - 他の人のことを考えて行動できるようにさせる - 給食や清掃をきちんとさせる - みんなと仲よく遊べるようにさせる	- 自分の持ち物の整理整頓使ったものの後始末をしかりする - 時刻を守る（五分前行動） - 給食や清掃において身じたくや後始末をしかりする - ルールを守り仲よく遊ぶ	- 児童がきまりを進んで守るようになるための指導のあり方についての研修が必要である - 自己中心的でルールを守れない児童の指導について研修が必要である	進んできまりを守るようにさせるにはどのような指導をすればよいのかについて	- 生徒指導主任の提案を受けて学年部で話し合う - きまりについての共通理解を全体研修で行う
		教育課程（教科・道徳・特別活動等）	- 各教科 学習の準備をきちんとできるようにさせる - 道徳 他人に迷惑をかけない心情を育てる - 特別活動 学校や学級のきまりを積極的に守るようにさせる - みんなでする場所やもののつかい方をきちんとさせる	- 学習で使用する諸用具を忘れないようにする - 整理整頓、正義、勇気、不とう不屈、自主自立、思慮節度の価値を大事に指導する - 学校や学級のきまりの守られていないところを見つけて児童会や学級会の話し合い活動を通して解決する - 学級指導でトイレや水飲場の使い方徹底する	- 忘れ物をしなくなるような指導について研修したいという要望がある - 他人に迷惑をかけない心情を育てる指導について研修する - きまりがどう守られているか、どう解決していくかについての指導が難しいので研修の必要がある - みんなでする場所やものを大事に使うためにどう指導すればよいのかについての研修をしたいという要望がある	- 忘れ物をなくす指導の工夫について - 他人に迷惑をかけない心情を育てる指導について - 児童が進んできまりを守っていく指導について - みんなでする場所やものを大事に使う指導のあり方について	- 学年部でそれぞれ研修をふかめる - 道徳主任を中心に全体研修をする - 外部講師を指導者として全体研修をする - 学年部でそれぞれ討議し深める
		運 営 活 動	- 時刻の番組の点検、各用具室の施設・設備の充実を図る - 共同で使用する場所の点検・整備をする - 学校のきまりの再検討をはかる	- 必要な箇所に時刻表配置されているかを調べる - 清掃用具、運動用具あるいはお世直し等使用する用具の点検・整備をする - トイレ、水飲み場、昇降口等の施設・設備の点検をする - 学年の発達段階に応じたきまりを設定する	- 清掃あるいは運動用具等の整理・保管はどうかあつちよいかの研修が必要である - 場所の配置や使いやすさなどの観点からどうかあつちよいか - きまりの理解が不十分な所がでてきたから	- 清掃あるいは運動用具等の整理保管について - 学校のきまりについて	- 専門部の提案により共通理解をはかる - 生徒指導部の提案により全体研修をする

教育目標 （力をあわせてみんなのために働く子ども）	具体目標 （美しい心をもつ子ども）	教 育 目 標	学 年 ・ 学 級 経 営		教育課程 （教科・道徳・特別活動等）	活動	研修の必要性	研修項目	方法と形態
			学 年	学 級					
			- 心の通った礼儀作法を身につけさせる - 動植物と親しませる - 歌うことの好きな子どもにする	- あいさつや会釈、場にあった言葉使いができる - 学級花壇の世話をする一人一鉢栽培をする - 児童で愛唱歌集を持たせ毎朝歌を歌う			- 基本的な礼儀作法をどうやって身につけさせるかについての研修の要望がある - 花の世話や小動物の飼育の仕方についての研修が必要である - 学年にあった歌、やさしい歌の選び方や音楽のしかたな教師でも歌の好きな子どもにさせる指導の工夫について研修の要望がある	- 日常生活における礼儀作法などの基本的な行動様式を身につけさせる指導について - 花壇の世話や小動物の飼育の仕方について - 学年にあった歌の選出と指導の工夫について	- 家庭科主任のプリントをもとに学年部で研修をする - 校内教師のプリントをもとに自己研修をする - 音楽主任を中心として全体で実技研修をする
			- 音楽 合唱や合奏の好きな子どもを育てる - 家庭 礼儀作法について基礎的な知識と技能をわからせる - 理科 身近な動植物の観察を通して、自然に接する楽しさを味わわせる - 道徳 美しいものや清らかな心を大切にする心情を養う	- 合唱や合奏の楽しさ・美しさをわからせる - あいさつや会釈、言葉使いなど基本的な礼儀作法を身につける - 理科で学習する動物や植物を飼育したり栽培したりする経験を重視する - 礼儀作法、自然動物愛護、尊敬、感謝、家族愛、愛国心、人愛の価値を大事に指導する			- 音楽の指導を不得手にしている教師が多いので研修の必要がある - 礼儀作法を身につけさせることが難しい - 動物や植物の飼育・栽培の仕方を研修する必要がある - 美しい心や清らかな心などのような指導を通して育てていけよいかについての研修が必要である	- 合唱・合奏指導について - 礼儀作法を身につけさせる指導の工夫について - 動物や植物の飼育や栽培の方法について - 美しい心や清らかな心を育てる指導について	- 音楽主任を中心として不得手の教師を対象に実技研修をする - 家庭科主任のプリントをもとに高学年部で研修をする - 得意な教師に資料作成してもらい自己研修する - 道徳主任を中心に全体研修をする
			- 礼儀作法を身につけさせるための家庭、地域との連携を強化する - 学校周辺の自然の利用を図る - 合唱や合奏をする場を設ける	「あいさつ運動」を継続発展させる - 自然観察コースを設けるその施設・設備の充実につとめる - 音楽朝会を設定する			「あいさつ運動」をさらに充実させるにはどうすればよいかについて研修の必要がある - 何をねらいとし、それにそった観察コースをどう設定するかの研修が必要である - 音楽朝会の持ち方をどうするか	「あいさつ運動」をさらに充実するための工夫について - 観察コースをどう設定するか - 音楽朝会の持ちかについて	- 生徒指導部の提案により全体研修をする - 理科部の提案により全体研修をする - 先進校の視察をする - 係りの提案をうけて学年部で討議する

(2) 洗い出された研修項目の整理

校内研修項目の洗い出し表をもとに、重点目標と対応させて23項目に整理したのが次の表である。

	研 修 項 目	研 修 の 主 な 内 容
重点目標	1 説明文の読解指導	・説明文や文学作品の読解 ・説明文や文学作品を順序立ててまとめる指導 ・読みとったことをすじみちを立てて相手にわかるように話す指導
	2 資料をいかした社会科の学習指導	・社会科学習における資料収集や実地見学等の指導法 ・資料の整理と活用の仕方 ・学年に応じた「社会の仕組み」の理解をはかる教材 ・資料を正しく読みとり順序立ててわかりやすく発表できる指導
	3 文章題の指導	・絵図や線分図を使ってすじみちを立てて考えさせる指導 ・絵図や線分図を使ってわかりやすく発表できる指導
	4 観察実験を重視した学習指導	・観察実験の指導法 ・観察実験ノートの活用法 ・論理的な思考の指導法 ・観察実験させたことをどのように発表させたらよいか
	5 グループ学習の指導とリーダーの育成	・学級会活動のねらいとその指導
	6 ドリル学習の指導	・漢字練習や計算練習の意欲づけとその方法
	7 基礎的・基本的事項の洗い出し	・教科における基礎的・基本的事項

重点目標	1 安全教育・安全点検	・交通安全、校外での遊びの安全指導 ・運動するにあたっての安全面への配慮 ・日常生活の仕方と心がけ ・交通安全指導と交通安全教室の持ち方 ・安全点検のねらいとその仕方
	2 運動への意欲づけ	・自ら進んでやろうとする意欲づけとその方法 ・いろいろな運動に積極的に参加させる指導法 ・意欲を継続させるための方策
	3 日本一周マラソンの方法と計画・指導	・業間体育の年間計画と実施方法 ・あきないでやり通せるための意欲づけ
	4 運動の得意な子どもに対する指導 運動の得意な教師への実技研修	・得意な種目の実技 ・目標カードの作成のしかたと個人目標のめたせ方 ・運動の苦手な子どもの指導法
	5 持久力を育てるための指導	・持久力をそだてるための指導のあり方

重点目標	1 基本的生活習慣の育成	・忘れ物をなくす指導の工夫 ・礼儀作法を身につけさせる指導の工夫 ・児童が進んできまりを守っていく指導 ・みんなで使用する場所や物を大切に指導 ・「あいさつ運動」の充実と工夫 ・学校のきまりの設定 ・基本的生活習慣を育てるための指導と家庭の連携 ・望ましい約束とはどういうことなのか ・約束を守った上手な遊び方をさせる手立て ・季節や場面に応じた服装
	2 学年に応じた話し合いのさせ方	・発達段階に応じた「話し合い」の約束ごと ・発達段階に応じた3分間スピーチの内容や方法 ・話し合いを活発にする指導法
	3 学級経営	・思いやりのある学級づくり ・学級経営についての実践交流 ・学級会活動のねらいとその指導

重点目標	4 楽しい合唱・合奏指導	・学年に合った歌の選曲と指導の工夫
	5 道徳の指導における資料の活用 「正義・公正、向上心、不とう不屈 生命尊重、協力、他人に迷惑を かけない、美しい心」	・向上心を培う道徳の授業のあり方 ・不とう不屈、向上心を育てる指導はどうかあればよいのか ・生命の尊さや健康のありがたさについての指導のあり方 ・資料の使い方、生かし方 ・正義、公正の資料の深い読みとり指導 ・本音をだせる道徳の授業について協力することの大切さ、物を大切にする指導 ・他人に迷惑をかけない心身の育成 ・美しい心、清らかな心の育成
	6 たてわり清掃の意義と実際	・勤労体験学習、奉仕活動の意義と実際

重点目標	1 児童朝会、児童集会の持ち方	・朝会の時間を利用しての発表の場をどう充実するか ・ゆとりの時間の運営
	2 読書指導	・読書に親しませるための効果的な指導法 ・読書を好きにさせる指導法 ・図書館の望ましい経営
重点目標	1 学校行事への主体的参加	・学校行事に進んで参加させるための指導のあり方 ・短距離走、長距離走、ハードル走、スキーの実技研修
	2 栄養指導・給食指導	・食物の栄養などに関心を持たせる工夫
重点目標	1 施設・設備の整備 「教材・教具の整備・保管、自然観 察コース、学級園」	・施設、設備の充実と安全な利用 ・使いやすい運動器具の管理 ・体力向上のための遊具の自作 ・使いやすい教材、教具の整理、保管 ・使いやすい観察実験用具の整備、保管 ・学級園や花壇の経営 ・動植物の飼育や栽培 ・図書館の望ましい経営
	2 3	

(3) 研修事項の軽重と形態・方法等

	項 目	時間	責任者	主な形態	主な方法	
重点目標	◎説明文の読解指導	A	研究主任	全・学・自	授業研究	A 時間をかけて継続的に行う B 時間をかけて行うが年間数回 C 時間をかけて行うが年1回ぐらい D 短時間で年1回 E 短時間で年1回ぐらい
	◎文章題の指導	A	研究主任	全・学・自	授業研究	
	◎基礎的・基本的事項の洗い出し	A	研究主任	全・学・自	授業研究	
	◎観察実験を重視した学習指導	C	理科主任	学・希	実 習	
	◎グループ学習の指導とリーダーの育成	B	学年主任	学	授業研究	
重点目標	◎読書指導	C	国語科主任	学	討 議	全 全体研修 学 学年部研修 自 自己研修 グ グループ研修 希 希望者による研修
	・ドリル学習の指導	D	学年主任	学	討 議	
	・資料をいかした社会科の学習指導	E	社会科主任	学	授業研究	
	◎日本一周マラソンの方法と計画・指導	A	体育科主任	学	討 議	
	◎持久力を育てるための指導	B	体育科主任	学・全	討 議	
重点目標	◎安全教育・安全点検	D	係主任	学・全	協 議	◎ 重点的にエネルギーと時間をかける ○ 学年部を中心に行う ・ グループ、希望者、自己研修
	・運動の得意な子ども、教師への実技指導	C	体育科主任	学・希・自	実 技	
	◎「道徳」の指導法とその改善	A	道徳主任	学	授業研究	
	◎基本的生活習慣の育成について	A	生徒指導主任	学	討議・事例研究	
	◎学級経営	B	学年主任	学	討議・事例研究	
重点目標	◎学校行事への主体的参加	B	教務主任	学	討 議	
	◎児童集会の持ちかた	C	特別活動主任	学	討 議	
	・たてわり清掃の意義と実際	E	係主任	全	討 議	
	◎施設・設備の整備	D	教務主任	全	討 議	

重点目標にそって洗い出された23の研修項目を同じレベルですめることは容易なことではない。そこで導き出された研修項目の必要性や緊急性などから軽重をつけ、さらに優先順位をつけて計画をたてる。P9からP17に提示した中から重点目標1, 2, 3ごとに分類し、18の研修項目にしばったのが前ページP19の表である。軽重度については、児童の実態、教職員の構成、力量、また重点目標との関わりから、その重要性にかんがみて決定されたものである。しかし、ややもすると◎印の研修に偏ってしまう危険性もあるので、○印、・印の研修についても、年間計画にきちんと組み入れて実施していかなければならない。

なお、最後の欄、施設・設備の整備については重点目標1, 2, 3とのかかわりで重要な項目であるが、係を中心にして進める研修なので、特に年間計画には入れないことにした。

3 校内研修の計画

前項において、教師の必要な研修項目を洗い出し、それらを重点目標と対応して分類整理してきた。ところで、研修に使える時間が無制限にあるというわけではないので、研修計画の作成に当たっては、研修の時間を週の日課表の中でどのように位置づけるのか、月あるいは1年間を見通してどのように設定していけばよいのか、ということが当然問題となってくる。この項では、どのような考えから研修時間と校内研修の年間計画を設定したのかを述べる。

(1) 研修時間の設定

日課表の中での研修時間を表1のように位置づけた。

- ・水曜日は校内研修日とし、全体研修会や学年部会などを通して研修内容を意図的・計画的・継続的に深めていけるようにした。この日は5校時までとして110分の研修時間を設定した。
- ・月曜日は、校務分掌を進めていく上での小集団の研修、すなわち、運営委員会や推進委員会・分掌部会、あるいは職員会議に使用する時間とした。これらの会合は、同時には持てないわけで、月単位の使用予定として表2のように振り分けた。ただし、職員会議だけは40分で短いので短縮授業等の変更が必要となる。
- ・金曜日は学年部会、又は学年会とし、細部にわたる共通理解の場となる。時には、研修内容についての討議にも使用する。

(2) 年間計画の作成

本年度、研修を予定した15の研修項目を年間の見通しに立ち、T小学校の実情を十分考慮しながら計画を作成したのがP22・23の表3である。計画作成についての手順・方法等は次の通りである。

- ① 表3からわかるように表のたて軸には研修日として設定した月曜日（運営委員会・推進委員会・分掌部会・職員会議）、水曜日（研修日）、金曜日（学年部会・学年会）を、よこ軸には各月ごとの週を目もった。
- ② 次に、15の研修項目それぞれに対応して年間計画を設定した。それぞれの研修項目が一年間の見通しの上に立って、学年部会や全体研修会あるいは係会など、どのような形態をとりながら進めればよいのかを予測して計画をたてた。
- ③ 前項において研修項目に軽重度をつけたが、それを参考としながら、それぞれの研修の内容に

表1 T小学校の日課表

	月	火	水	木	金	土
1 校 時 8:40~9:25	○	○	○	○	○	○
2 校 時 9:35~10:20	○	○	○	○	○	○
中 間 休 み						10:20~10:40
3 校 時 10:40~11:25	○	○	○	○	○	○
4 校 時 11:35~12:20	○	○	○	○	○	○
昼 食 ・ 昼 休 み						12:20~13:25
5 校 時 13:25~14:10	○	○	○	○	○	○
清 掃 ・ お わ り の 会						14:10~14:40
6 校 時 14:40~15:25	ゆとり	○	14:50	ゆとり	15:40	
校 務 ・ 研 修 16:00~16:40	16:00 16:40		16:40		16:40	

(注)  研修時間 ○ 授業時間

表2 月単位の研修時間使用予定表

	第1週	第2週	第3週	第4週	備 考
月	運営委員会	推進委員会	分掌部会	職員会議	研修時間 16:00~16:40(40分)
火					
水	研 修				" 14:50~16:40(110分)
木					
金	学 年 部 会				" 15:40~16:40(60分)
土					

応じて係会の検討だけでよいのか、係会の提案をうけて全体で研修する必要があるのか、あるいは全体研修を終えて学年部会でどんな課題を何回とらなければならないのかなどを予測して、それを計画表に盛り込んだ。

- ④ 学校研究としては、説明文の読みとり（国語）と文章題の解き方の指導（算数）についてであり、これは教師全体が総力を上げて意図的・計画的・継続的に行うものであることから、その研修時間の取り方として、他の研修項目に支障をきたさない範囲内で多くとった。

	研 修 事 項	優先度	3				4				5				6				7			
			1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
重点目標1	1 学 校 研 究 (説明文の読みとり、文章題の解きかたの指導などを含む)	◎	月		C		A			C	A					C	C			C	C	
			水	A	A		A	A	A	A			A	A	C		A			A	A	
			金		B		B	B	B		B			B		B		B		B		
	2 観察実験を重視した学習指導	○	月										C									
			水												B							D
			金																			
	3 グループ学習の指導とリーダーの育成	○	月																		C	D
			水							C	A											
			金							B												
	4 読書指導	○	月							C												
			水							A												
			金					B	B													
	5 ドリル学習の指導	・	月																		C	D
			水							C												
			金							B												
重点目標2	6 資料を生かした 社会科の学習指導	・	月									C										
			水																			
			金										B									
	7 持久力を育てるための指導 (日本一周マラソンとその方法計画も含む)	◎	月							C												
			水	A				A								C						D
			金													B						
	8 安全指導	・	月									C										
			水									A										
			金																			
	9 運動の不得意な子ども 教師への実技指導	・	月																			
			水													C	C					
			金														B				D	
	10 「道徳」の指導法とその意義	◎	月																			
			水							C		C			C							
			金											B								
重点目標3	11 基本的生活習慣の育成	◎	月							A												
			水	A				A							C							
			金	B				B													B	
	12 学 級 経 営	◎	月				A				A			A			A		A			
			水																			
			金							B	B					</						

—22—

—23—

⑤ 研修項目12の学級経営についての研修は、定例職員会議の中で20分程度取り扱うことにした。これは、「できるだけ多く研修をしたい」という若手教員の要望からであり、事例研究として進める。

⑥ 年度はじめはどの学校においても分掌等の諸計画作成に忙しく、実際の活動が5月に入ってからということになってしまう場合がでてくる。そのようなことから年度末の反省を重視しその計画の大筋を、3月中に立案しておき、4月早々から円滑な活動ができるようにしたい。このような考えから、前年度の3月における校内研修計画を年間計画に位置づけた。

4 校内研修の評価

どのような活動であっても、計画—実践—評価—（改善）—計画—の評価活動のサイクルを重視しなければならないことは当然である。校内研修についても適切な評価計画によって、教師の力量がどのように高まり、児童の行動がどう変容したのかを見きわめていくことによって、これが次の研修に反映され、より質の高い研修となっていく。だから、望ましい評価活動は校内研修改善には欠くことのできないことである。

さて、このことを念頭におきながらもここで特に問題としたいことは、計画が計画だけにとどまるのではなく、その計画の中に評価計画がみえてくるようであればならないということである。言い換えれば評価と計画は表裏の関係にあるということであり、計画そのものからどのような評価活動を行えばよいのかが浮きぼりにされるようであれば十分でないということである。T小学校の研修計画作成の過程を振り返ってみれば表4のような評価の観点が想定される。その観点をさらに詳しく項目を起こすとすれば36ページ表Fに示したようなものとなろう。さらにそれぞれの研修項目についての評価があるが、これは研修したことによって教師の力量がどう高まってほしいのか、教師の指導によって児童の行動等がどのように変わってほしいのか、といった期待される姿を計画の段階で作成しておきたいことである。

一例として、22ページの4に読書指導についての研修が予定されているが、この研修によって児童の望ましい姿を想定して表5のような教師に対する評価項目を設定してみた。このような評価項目をもとにして、読書週間の直後とか、または一ヶ月後とか児童の行動等の様子をチェックすることによって、読書の定着度だけではなく、教師の読書指導のあり方が評価され、引いては、次の研修会の持ち方の改善へと反映していくことになる。

表4 校内研修評価の観点

1. 研修内容と教育目標とのかかわり
2. 研修内容の洗い出しの工夫
3. 研修内容の軽重度の妥当性
4. 学校研究の主題と内容
5. 研修日の位置づけ
6. 研修の年間計画の工夫
7. 研修の形態や方法の工夫
8. 研修・研究の組織
9. 研修時間
0. 研修と授業改善
1. 教師の力量向上と児童の変容

表5 読書指導についての評価

	A	B	C	備考
1. 読書の量が増えたか				
2. 学年にあった良書を選ぶようになったか				
3. 図書館の利用はじょうずになったか				
4. 読書のジャンルは広がったか				
5. 読書感想文の題材を見つけられるようになったか				

5 研修を進める上での留意点

(1) 研修計画に沿って推進する

研修の年間計画をもとに、お互いができるだけこれを守りながらその運営に当たるようにする。この計画の中で、それぞれの研修の責任者や担当者は、その研修が教育目標の実現とどうかかわっているのかをきちんと理解し、充実した研修になるよう創意と工夫を図っていく。

(2) 研修の時間を確保する

計画されている研修時間を有効に使うためには、研修の内容にあわせて討議・実技・事例研究などいずれの方法で行うか、また、学年部研修会・全体研修会などのどの形態で行うことが効率的か、といったことを十分吟味する。安全点検のし方やドリル学習の指導などは長時間費すよりも、15分程度の研修を継続的に行った方が効果的である、というものもある。これらの工夫は、研修時間を確保することにも結びついていくものと考えられる。

(3) 研修組織の改善を図る

学校研究は校内研修の一部分であるという考えに立って、それにふさわしい組織に改め、いままでの研究主任をなくし校内研修主任を置く。組織の改編にあわせて、教育目標の具現化をめざすために必要な研修をうけて仕事を進めていく。これは校長・教頭・教務・研修主任・学年部代表（3名）が入るものとする。

(4) 評価をつみ重ねていく

計画段階で、評価項目の作成を整える。この評価項目をもとにして、随時行う研修時の評価やふし目ごとの評価、年度末の評価を実施する。その結果を次回の研修会や次年度の研修に反映することによって研修の質的向上を図っていく。

V 校内研修の改善

— すぐれた実践例をもとに —

前章においては、望ましい校内研修の姿をT小学校の実態に合わせ具体的な作業を通して、校内研修の内容や計画、形態・方法、評価等について明らかにしてきた。

それをうけてここでは、県内のすぐれた実践校の聴き取り調査に基づいてその実践例を紹介しながら今後どういった視点から校内研修の改善を図っていけばよいのかについて考察してみる。

1 校内研修の本来の機能を発揮させる工夫

(1) 重点目標を達成するために必要な校内研修の内容設定

表1(P28～P29)に紹介したA校は30学級をこす大規模校である。この小学校では、教育目標をうけて本年度児童に達成させたい重点目標を掲げ、それらに対応して必要な研修内容を設定している。この学校がどのような考えに基づき校内研修の内容を設定し、研修本来の機能を発揮させようと工夫しているのかについてその特徴をみえる。

① 年度の重点目標をうけて指導の具体策を明らかにしている

A校では、児童の実態を分析した昨年度の反省に立って、本年度取り組むべき目標、すなわち四つの重点目標を設定している。そして、それぞれの重点目標をどのような活動を通して児童に実現を図っていくのかがわかるように、それを「具体策」としてまとめている。A校の教師にとっては、この「本年度の重点と具体策」が毎日の教育活動を進めていく上での指針となるものである。

② 校内研修の内容が明らかである

前項で指摘した「本年度の重点と具体策」を核として、具体的な教育活動が展開されている。

A校では、自校の教師に必要と見込まれる校内研修の内容を重点目標と対応させて17項目を、それに学校研究の内容とを設定している。また、研修の項目をみると◎印と○印の区別があり、研修内容に軽重をつけているのがわかる。◎印は、教師が総力を上げて意図的・計画的に取り組む研修内容である。

③ 校内研修の計画や方法・形態等が明らかにされている

備考の欄をみると、校内研修のそれぞれの項目がどのような計画あるいは方法・形態で進めるのかがわかるように示されている。これがもととなって具体的な研修計画の作成が図られていくことになる。

④ 学校研究の位置づけが明確にされている

A校では「本年度の重点と具体策」の⑤に学校研究をのべている。そして「主な研修の内容」をみると、重点目標に対応した研修内容と学校研究として研修する内容とが列記してある。学校研究というのは、全教員が意図的・計画的・継続的に総力を上げて取り組むものであり、校内研修に占める割合は大きくなるであろう。しかし、校内研修の内容が学校研究だけではないことをA校の実践は指摘している。

(2) 教育課程等の課題解決をめざす校内研修の内容設定

表2(P30～P31)は10学級以内の規模の学校(B校)の実践例である。この学校の実践の特徴は、次の二点に集約される。

その一つは、教育目標の具現化をめざす校内研修の内容を教育課程(各教科・道徳・特別活動)及びその他の活動(生徒指導・ゆとりの時間・給食活動等)の両面から、それぞれの指導の重点を分析して設定されていることである。これは教師一人一人が日々の授業を進める中で何が課題であり、児童をどう高めていけばよいのかが明らかである。

二つめは、「指導の重点」に定めた内容について、特にいつ、研修するかという計画をの印で表わしたことである。この研修計画表は、どの月に、どのような研修が、どんな方法・形態で行うのかということが一目でわかるように工夫されている。

以上、二つの学校において校内研修の本来の機能を発揮させるためにどのように工夫を図っているのかを紹介したが、両校の実践をあわせて考えると、次のようにまとめることができる。

(1) 校内研修と学校研究の位置づけを明確にしなければならない

校内研修の内容や計画をみると、学校研究だけが大きくクローズアップされ、教育目標の具現化のために必要な研修は何かという視点からの検討がおろそかにされてきたとはいえないだろうか。学校にとって最大の教育課題は、その学校の教育目標をどのようにして児童に具現化していくかということである。学校研究は、校内研修の一翼になう重要な部分ではあるが、決してそれがすべてではないという認識に立つことが校内研修の内容設定にかかわって大切な考えといえよう。

(2) 校内研修の内容は教育目標の具現化を見通して設定されるものである

それぞれの学校で掲げている教育目標はその学校の教育活動を支える基本であり、この目標の実現をめざして、組織づくりを行い、教育課程を編成し、具体的な教育活動を展開しているわけである。言うまでもなく、教師の日々の教育活動が児童の行動に適切かつ効果的に反映するためには研修を抜きにして成り立つものではなく、授業の改善に結びついた校内研修の推進が図られなければならない。

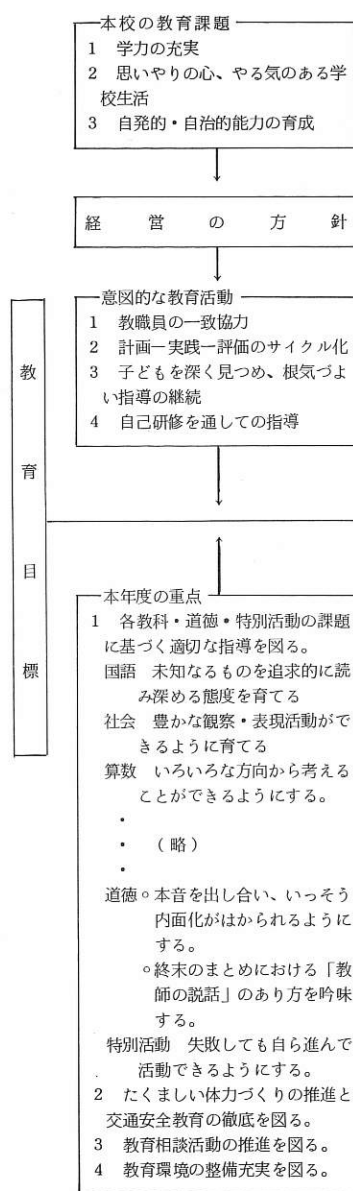
校内研修の内容の設定に当たっては、教育目標との関連を図りながら、児童の実態や教師の力量をつき合わせ設定していくことが大切である。従来ややもすると、この点への配慮が十分なされていなかったきらいがなかっただろうか。この関連を明確にし研修の内容を設定していくことが、校内研修の本来の機能を発揮させる工夫として重要な視点といえよう。

表1 A校の実践

学校 の 教育 目 標	学校経営の方針（略）
	本年度の重点と具体策 前記経営の方針にのっとり、学校教育目標の具現化に向けて、本年度次のことを重点としてすすめる。その際、指導のあり方として、重点達成に向けて、児童が自ら意欲的に取り組むように指向する。 (1) 重点目標1 ◎話す力を身につける ○じょうずに聞く ○大きな声ではっきり話す ○わかってもらえるように話す ・話型指導の徹底 ア 筋道たてて話すことのできる子どもの育成をねらいとするが、やがては、自分の考えと比べたり、お互いの意見を尊重しながら話し合うことのできる子どもにしていきたい。 イ 学年発達段階や学級の実態、さらには教科の特質を十分ふまえた話型（発表のしかたや話し合いのしかたなど）を指導し、その徹底をはかる。 ウ 教科の時間を中心としながらも、特に学級会における話し合い活動にも力を入れていきたい。 また、朝夕のあいさつや児童朝会の発表等も含め、学校生活におけるあらゆる機会をとらえ、はっきり話すよう指導する。 エ 授業研究の際には、「話し合い」の場面を意図的にとりあげ、事例を紹介しあいながら研修を深める。 (2)～(3) 略 (4) 重点目標4 ◎体力を高める ○持久力をつける ○筋力をつける ○うがい、手あらいをする ・補強運動の徹底 ア 教科体育を充実し、その中で運動の大切さ・楽しさを知らせ、生活の中に体力づくり運動を取り入れるようにしむける。 イ 教科体育（授業時）における意図的・計画的な体力づくりについて、補強運動のあり方や指導過程など、授業研究を通して検討しあう。 ウ トリムコースを、距離や速さのめあてを持って走らせる。また、A小ランドをフルに活用し、遊びながら筋力がつくようにしむける。 エ スポーツテストによる、児童の体力・筋力の傾向を把握した上で、教科体育時の5分間補強運動・教科外体育（朝の活動・放課後の活動など）での体力強化を計画的に実施するとともに、体力・運動能力カード（スポーツカルテ）を作成し、その活用をはかる。 オ 給食後のブクブクうがいとともに、遊びや休けい時、清掃後などのガラガラうがい、手あらいを励行させる。 また、歯みがき強調学年（1・2年）や強調月間を設定し、指導の徹底を期す。 (5) 重点目標5 ◎自らめあてを持ち、意欲的に追求する力を身につける —— 学校研究計画によって具体化する。—— （具体的内容は別記）

重点目標	主 な 研 修 の 内 容	備 考	※各学年教科・学道級徳目・目標への別個の活動・生徒と生徒指導等と営の案を明記（別計画）実践評価
1 話す力を身につける	◎筋道たてて話すことのできる子どもの育成 ○学年の発達段階に応じた話型指導の継続 ○学級会における話し合い活動の指導 ○朝の会や終わりの会・児童朝会など発表の場を生かす	・学校研究の中で進める。授業を通して指導法を高める。 ・学年会で研修する。重点目標の3と合わせて行う。 ・係の原案にもとづき学年会で討議	
2 注意しあってはじめのある生活をする	◎問題行動に走りやすい子どもの共通理解 ◎望ましい生徒指導のあり方や教育相談のあり方を事例的に研究する。 ◎道徳の重点目標を設定し、実践化を図る ○学校内外における基本的な生活習慣及び行動様式の周知徹底 ○学校のきまりの再検討をする	・4月中に子ども理解の時間を設定 ・定例職員会に生徒指導や教育相談についての事例を発表する時間を設ける ・学校研究の中で進める。授業研究は年二回行う。 ・生徒指導部会で問題点を整理し、学年会で討議する。P T A 研修会	
3 はげまして活動をする	◎意欲的に活動を進めていく学級会活動の指導 ・議題の選び方 ・教師の適切な助言のしかた ・児童会活動の活発化 ○学年内の横の連携と兄弟学級とのたのつながり ○学年の横の連携と兄弟学級とのたのつながり ○勤労体験学習の場とその方法等の確立を図る	・全体の授業研究は年1回、学年部単位で授業を通した研修を行う。 ・学年会で検討する } 三学期に実践交流の機会を設ける。 ・兄弟学級で検討する ・学年会討議を経て全体研修会を持つ	
4 体力を高める	◎教科体育を充実する（持久力・筋力の強化と補強運動のしかたを中心に） ◎体育実技講習会（マット運動・スキー） ○トリムコースとA小ランドの活用方法 ○体力・運動能力カード（スポーツテスト）の作成 ○うがいと歯みがきの励行とその意欲づけの方法	・全体での授業研究は年1回。学年会中心に授業を通した研修。 ・係を中心に年3回 ・係の案をもとに学年会で討議 ・保健主事の案をもとに学年会で意欲づけの方法について研修する。	
5 自らめあてを持ち、意欲的に追求する力を身につける（学校研究主題）	研究主題 一自らめあてを持ち、意欲的に追求する力を育てる指導はどうあればよいか— 〈国語〉意欲をもって、確かに読む子どもを育てる指導はどうあればよいか— 一文芸的文章を通して— 〈社会〉社会的意味を確かにとらえさせるための指導はどうあればよいか— 〈算数〉既習の力を生かし、具体的操作をとり入れて意欲的に問題を解かせるための指導はどうあればよいか— 〈理科〉めあてを持ち、意欲的に追求する力を育てる指導はどうあればよいか— 〈道徳〉道徳の実践意欲を高めるための指導はどうあればよいか—放送利用を通して—	・研究組織として、教科研究部会と低中高学年部会をもつ。 ・国・社・算・理は教科研究部会が中心となり進める。授業研究は7回、うち2回は全体研修会。 ・道徳は低中高学年部会が中心となり進める。授業研究は2回。 ・特殊教育授業研究を年1回。	

表2 B校の実践



指導の重点	
教育	国語 未知なるものを追求的に読み深める態度を育てる指導法を研究する。 1 初発の感想をどう課題に結びつけるか。 2 説明文を追求的に読み深める指導の工夫はどうあればよいか 3 国語の力をテストにより分析する。
	社会 観察・表現活動及び資料活用の指導はどうあればよいかを研修する。 1 学年の発達段階に応じた観察・表現活動はどうあればよいか。 2 資料が活用できる保存のしかたを考える。
	算数 多様な考えを導く指導はどうあればよいかを研究する。 1 多様な考えを導き出す課題提示のしかたはどうあればよいか。 2 児童から出されたいろいろな考えをどのようにまとめればよいか。 3 算数の力をテストにより分析する。
課題	道徳 「道徳の時間」において、より内面化を図る指導はどうあればよいかを研究する。 (3年次継続) 1 かつとう場面の設定のしかたと本音を出させる指導はどうあればよいか。 2 終末のまとめをどう工夫したらよいか。 3 地域素材の教材化の資料を作成する。 4 展開の概要の見直しを図る。 5 基本的生活習慣の指導のあり方をさぐる。 (来年度研修に向けて)
	特別活動 児童活動、とくにクラブ活動の指導はどうあればよいかについて研修する。
備考	
その他の活動	生徒指導・清掃活動・給食活動・ゆとりの時間・朝の会等……………(略)

研 修 計 画													備 考
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
													・国語の1と2と一緒に研修する ・授業を通して研修 9月は学年部会 12月は全体研修会 ・国語部会が進めるが分析は学級担任 ・部会で全体傾向把握
													・社会科部会の提案をうけ学年部会で
													・9月と12月は国語と算数の授業月間として研修を深める ・分析は学級担任 部会で全体傾向把握
													・学校研究である。 ・授業研究を通して主題にせまる ・年1回は授業をみてもらう ・8月は自己研修、9月に発表会 ・授業のつど修正を加えていく ・来年度研究の方向性を探る
													・研修成果を来年度活動に生かす
諸計画立案		道徳授業月間			国語・算数授業月間		道徳授業月間	国語・算数授業月間		研究のまとめ	反省		

←主たる研修

←他の研修と並行して進める研修

2 校内研修計画作成上の工夫

表3のC小学校は30学級の大規模校であり、表4のD小学校は10学級以下の小規模校である。両者とも校内研修の内容が具体的に明示されており、それがどのように進められていくのかがよく表わされている。両校の実践をもとに、ここでは校内研修計画作成上の工夫や方法・形態等はどうかあればよいのかについて考察してみる。

(1) 校内研修計画作成上の工夫

両校の研修計画表に共通する特徴は、校内研修の内容が何であり、それがどのような形態で、誰が責任者となり、どのような方法で行われるのかが一目でわかるという、計画表としての持つべき要素をそなえていることである。

大規模校であるC校においては、研修の日程にしたがって校内研修の内容が明記され、それに対応して形態、提案者、方法等が明記されている。小規模校のD校では、研修の内容に応じて、それが全体研修会で行うのか、学年部会あるいは研究推進委員会で行うのかがわかるようになっている。

(2) 校内研修を進める形態の工夫

二つの表をくらべてみると、校内研修の行われ方の違う点がわかる。それは、どのような形態で行われているかという点である。C校では学年研修会の形態が、D校では全体研修会と学年部研修会の形態が多くなっている。

この違いは学校の規模が関係しているようである。C校のように大規模校では、一学年で4～6名ほどの担任がいるわけで、学年単位での討議が最も研修の成果が上がるという考えからであり、小規模校であるD校では学年単位では人数も少ないわけで、学年部会や全体会で行うほうが研修が深まるということからである。

(3) 校内研修の方法等の工夫

表3の校内研修計画表をみると研修の内容に応じて、討議・事例研究・実習・実技・授業研究等、いろいろな方法で進めようとしていることがわかる。研修の内容にあわせてそれにふさわしい方法を考え、効果のあがる質の高い内容にしていきたいものである。また、C校のように研修の提案者あるいは責任者としてそれに多くの教師が当たるよう配慮することによって、研修が全員のものとなり一層の活性化が図られていくものと思われる。

以上、二つの学校で立てられている研修計画をもとに、その作成や方法・形態の工夫として次のようにまとめることができる。

- (1) 校内研修計画の作成に当たっては、どのような研修を、いつ、誰が、どのように行うのかがわかるよう具体的に表わすことが大切である。そうすることによって、教師一人一人がどんな内容をどう研修していけばよいかがわかり、研修に対する構えや意欲をうながすものとなる。
- (2) 全体研修や学年部研修、学年会研修等の形態を、学校の規模や研修の内容、研修対象者等にあわせて使い分けが必要である。最近若い教師が多くなっていることもあり、彼らが経験豊かな教師の意見のやりとりの聞き役に終わることのないように配慮しなければならない。

表3 校内研修月別計画（夏期休業から9月までを抜すい）

C 小学校

月	日	曜	校 内 研 修	形 態	提 案 者	方 法	備 考
7	24	木	・学年の発達段階に応じた観察・表現活動について（社会）	学年会研修	社会科部会	討 議	・部会で討議資料を準備
	25	金	・内面化を図る指導法について（とくにかつとう場面での発問）	学年会研修	学年推進委員	事例研究	・共同して指導案作成
8	8	金	・道徳授業の改善（かつとう場面での望ましい発問）	全体研修	学年代表	事例研究の発表と討議	・共同して作成した指導案の発表
	9	土	・社会科で用いた資料の保存について	社会科部会研修	社会科主任	討 議	・後日の職員会議で提案
	22	金	・生徒指導研修会（二学期に向けて）	全体研修	生徒指導主任	討 議	・二学期の方針と事例発表（4～5名予定）
	27	水	・地層の指導法について（理科） ・糸のこを使って（図画工作）	グループ研修 グループ研修	理科主任 図画工作主任	観察実習 実技実習	・若手教員・希望者
9	3	水	・初発の感想と課題設定について（国語）	学年会研修	授業予定者	研究討議	・指導案をもとに研修を深める ・教科部で資料提供
	10	水	・多様な考えを導きそれをまとめる指導について（算数）				
	17	水	・国語・算数の授業研究会	学年部会研修	授業予定者	授業研究	
	24	水	・終末における「まとめ」の指導のあり方について（教師の説話）	学年会研修	学年推進委員	討 議	
	29	月	・道徳教育用郷土資料作成発表会	学年会研修	各 人	発表・討議	・夏期休業中に自己研修したものの発表

○は学校研究（道徳 一内面化を図る指導一）に関わる内容

表4 月別研究推進計画（5月から6月までを抜すい）

D 小学校

月	日	曜	全体研修会（職員会議も含む）	学年部会	研究推進委員会	備 考
5	7	水	・校内研修と学校研究の共通理解（最終）			（学校研究は国語科を中心に進める）
	12	月			・全体研修会の反省と課題・児童の実態調査の方法の検討	・本校独自の調査法を研究する
	14	水	・児童の実態調査（国語）の方法について			・実態調査の分析は学年部、考察は全体研修会で
	21	水		・実態調査の分析	・調査の集計、分析 体育実技の持ち方	・実技（鉄棒と巾とび）を中心に
6	27	火				
	28	水	・スポーツテストの結果と体育授業での重点競技			
	10	火	・児童の実態の考察			
	11	水	・第一回校内授業研究会（2年・6年）	・国語指導案の検討 教材研究		・学校研究の趣旨に学年部でどうアプローチするか明確にする
	18	水			・授業研究会の成果と課題・生徒指導の問題把握	・「D小のきまり」の評価を推進委員が集約
	23	月				・実践の場としては全校合唱・学級発表・演劇・学級会活動等があるが、その運営を工夫したい。
	26	金	「D小のきまり」の見直しと指導の手だて			
	29	月	・国語科における読解指導の発展的実践の場の検討			

3 実践に結びつけるための工夫

研修したことがどのように教師の力量を高め、毎日の授業に生かされ、児童の行動に良い影響を及ぼしていくのかを見極めることは、校内研修の改善を図る上で重要な鍵となるものである。

ここでは、研修したことが毎日の授業実践に結びつけるための評価をどのようにすればよいのかについて考察してみる。

(1) 短い周期の評価、又は研修ごとの評価の工夫

校内研修に限らず評価というのは年度の終わりに行う年度末評価、あるいは教育活動のふし目ごとに行う学期末評価等があり、学校の実情に合わせていろいろな方法で実施され、その成果を次の活動に反映していこうと努力しているが、研修会ごとの評価となると手薄となっていないだろうか。もちろん、研究主任はじめ研修の担当者は、内容が何であり、どんなねらいをもち、どのような形態・方法等で行うのかなどについて十分な配慮をしているし、また、研修会が終わると、いまのようなことが解決され、未解決なことは何かについても明らかにしようと努力している。とはいえ、随時行われる研修会において、教師の指導がどう高められたのか、あるいは児童の意欲にどう反映したのかなどについての評価が十分なものになっていないのが実情といえよう。

研修会ごとの評価はどうすればよいのであろうか、B校の研修を例に考えてみる。

B校の校内研修内容の中の特別活動において、「児童活動、特にクラブ活動の指導はどうあればよいか」についての研修が予定されており、これを7月に行うと計画されている。この研修会を実施した後どのような視点から反省を行えばよいのだろうか。

右表はその試みである。このように、その時々の評価を行うことによって、その研修が教師一人一人の課題に応えたものであったのか、あるいは、授業の改善に結びつくものであったのかの評価され、それが次の研修の改善に反映していくことになる。

(2) 長い周期の評価、又は学年末・年度末の評価の工夫

聴き取り調査を行いたいずれの学校も研修計画が綿密であるばかりではなく、年度末に行う学校評価についても熱心であり、評価したことを諸計画に生かすべく時間をかけている。一例を示せば、経営全般にわたっての反省に冬期休業の期間を利用して3日間（のべ9.5時間）を費やしており、問題点の指摘だけに終わらず、次年度にそれをどう改善するかを検討している。

表Eは、B校の実践例である。この学校では、年度末に校内研修についてここに記したような項目をおこして評価活動を行っている。それぞれの項目について各自が段階の判定と改善点を記し、それらの集計をもとにして次年度の計画作成に生かしている。この評価活動が行われているからこそ、4月の

1. 研修会の時間設定はどうであったか
2. 形態や方法は適切であったか
3. クラブ活動のねらいがわかるようになったか
4. 今までのクラブ活動の指導の弱さがわかったか
5. これからのクラブ活動をどうしていったらよいか、その具体的指導がわかるようになったか
6. 実際のクラブ活動に生かされたか、またどのような効果があったか

早い時期に具体的で綿密な研修計画の作成が可能となるのである。

とはいっても、校内研修の評価項目が表Eのようなもので十分か、となると問題がないとはいえない。研修したことが授業を改善する上でどのように役立ったのか、あるいはそれが児童の変容にどのように結びついていったのか、という行動レベルまでの評価には至っていないからである。

これらの観点から、B校の研修活動の評価項目はどうあればよいのかについて、一つの案を試みたのが次のページの表Fである。

学期末の評価についても、表Fのように(ア)校内研修の内容について (イ)校内研修の計画について (ウ)校内研修の組織について (エ)校内研修の持ち方について (オ)研修したことがどのように授業改善に結びついたか (カ)研修したことがどう児童の変容に結びついたか、などの観点から特に(ウ)(エ)の観点を大切に自校の実態にあわせて実施し、次の学期に反映していきたいものである。

以上のことから、研修の内容が長期的なものであれ短期的なものであれ、計画—実践—評価—計画のサイクルをしっかりと踏まえることが校内研修の改善に結びつく重要な視点といえよう。なかでも特に大切なことは、計画とは何かということである。計画と評価は別個にあるのではなく、表裏一体のものである。計画の作成段階において、研修の成果を見通し、結果を予想してあらかじめ評価の観点を書いておくようにしたいものである。そうすればどんな理由でどんな成果があったのか、どんな課題が残されたのかが一層はっきりしてくるはずであり、このことが毎日の授業実践に結びついた校内研修となっていくものといえよう。

表E 年度末における校内研修の評価

評 価 項 目	よい 5	ふつう 4	わるい 3	2	1	改 善 点
1 研修内容は適切であったか						
2 学校研究の主題と内容は適切であったか						
3 年間計画は適当であったか						
4 校内研修の組織は適切であったか						
5 校内研修の持ち方は適切であったか						
6 研修したことが役に立ったか						
7 研修したことが児童の変容に結びついたか						

表F 校内研修の年度末評価試案

評価項目	5	4	3	2	1	改善点
(ア) 校内研修の内容について 1 校内研修の内容が教育目標と結びついていたか 2 校内研修の内容は適切であったか 3 学校研究の主題と内容は適切であったか						
(イ) 校内研修の計画について 1 日課表の中での研修日の位置づけは適切であったか 2 日課表の中での各部会や学年部会の位置づけは適切であったか 3 年間計画は具体的であったか						
(ウ) 校内研修の組織について 1 校内研修の組織は適切であったか 2 学校研究の組織は適切であったか						
(エ) 校内研修の持ち方について 1 研修会の時間の設定は適切であったか 2 研修会のねらいが明確であったか 3 研修会の形態は適切であったか 4 研修会の責任者が的確に役割を果たしたか 5 研修会の方法が適切であったか 6 研修会の進め方に創意や工夫がみられたか 7 研修会の記録や事後の問題点の整理など適切になされたか						
(オ) 研修したことが授業を改善する上で役に立ったか 1 初発の感想を課題に結びつける指導（国） 2 説明文を追求的に読み深める指導（国） 3 多様な考えを導き出す課題提示の工夫（算） 4 多様な考えをまとめる指導（算） 5 かっとう場面の設定のしかたと本音を出させる指導（道） 6 終末のまとめの工夫と指導（道） 7 展開の主要の見直し（道） 8 児童活動、特にクラブ活動の指導（特）						
(カ) 研修したことが児童の姿容に結びついたか 1 初発の感想を喜んで書くようになった 2 みんなの感想から課題をなんとか見つけられるようになった 3 わからないこと不思議なことを調べたいことが見つけられるようになった 4 わからないことなどを資料を探して調べるようになった 5 説明文の勉強のしかたがわかり喜んでとり組むようになった 6 クラブ活動は自分たちでするものだということがわかってきた 7 クラブの時間を守るようになった 8 自分たちで活動の計画を立て、実践し、反省するようになった						} (カ)の1 } (カ)の2 } (カ)の8 (注)： ここには(カ)の 1・2・8の 評価のみ記した。

4 校内研修の意欲化を図るリーダーシップ

校内研修の計画がどんなに綿密なものであっても、実際に児童の教育をになう教師に意欲がみなぎっていないければ望ましい成果を期待することは難しい。教師一人一人が課題に向かって「よしやろう」という協働意欲をわきたたせ、校内研修の計画にもとづいて主体的な行動を促すようはたらきかけていくにはリーダーシップの影響するところが大きい。その役割を果たすのが、すなわち、校長・教頭であり具体的な仕事上のかなめとなる教務主任や研修（研究）主任・学年主任等である。

これらのリーダーが校内研修を運営するに当たって、どのように教職員の意識を高め、意欲化を図っているのか、また、どのようなことが課題となっているのかについて考察してみる。

(1) 毎日の授業こそ最高の研修である

校内研修というと、複数の人数があるテーマのもとに討議したり授業研究したりすることだ、と理解しがちであるが、なんといっても最高の研修は毎日の授業である。もともと研修というのは他から押しつけられて行うものではなく、本人がその必要性を感じて行うものである。

だから、日常の実践を研究的態度をもってあたることをぬきにしては研修にはならないことを再認識すべきだろう。研修のそれぞれのリーダーはそのことを十分踏まえながら研修を進めていかなければならない。あわせて教師各人が行っている授業や分享している仕事と教育目標とがどのようにかかわりあっているのかを自覚させる努力を続けることによって、各人が自分のやっていることが目標の実現とどうかかわっているのかわかり、研修についての意欲が一層高められることになる。

(2) 校内研修と教育目標との関連を自覚させる

校長は、校内研修に限らずそれぞれの教師が分享している校務が目標の実現とどうかかわっているのかを自覚させることにその意をはらっている。教師一人一人が日常の教育活動、すなわち教科の授業や生徒指導・清掃指導の活動を行っているわけであるが、そのことが教育目標の実現に直接結びついているという自覚を持てるよう、その関連を明らかにすることが極めて重要なことである。それがわかってこそ研修に対する心構えや意欲が一層発揮されていくものである。

研修（研究）主任においても、校内研修の内容や計画の設定、あるいは研修会の実施等において学校の教育目標との関連について見直しを図りながら、それが日々の教育実践に生きてはたらくよう指導に当たりたいものである。

(3) 研修意欲を高める

33ページに紹介したC校の校内研修月別計画をみると、8月27日（水）に「地層の指導法」と「糸のこを使って」という研修が予定されており、備考にはこの研修は若手教員や希望者を対象としていることがわかる。最近、若手教員の割合が大きくなっていることを考えれば、どのように力量を高めていけばよいか重要な課題といえよう。

若手教員は研修しなければならないと思っているのに、どう研修すればよいのかわからないでいる場合が多い。確かに学年部会等で指導されることになるが、ともするとそれが無意図的になりやすい。若手教員の悩みに対応して、経験豊かな教師による適切な、しかも意図的・計画的な指導が必要であり、そのことによって若手教員の研修意欲が一層高まることになる。

一方、経験豊かな教師はともすると、惰性に流され、指導の仕方が型にはまってしまうということにもなりかねないので、研修を通して新しい指導法を考えていく研究的態度が要請される。

若手教員や経験豊かな教師の別なく、学校における自分の仕事の自覚に立ってよりよい考えを導くために研修の質を高めていきたいものである。

(4) 自己研修の活性化を図る

訪問したいいくつかの学校において、個人研究の推進を重点の一つにとり上げているのがみられた。ある学校では年度当初に個人ごと研究テーマを設定し、年度末に一年間の研究成果の発表会を行っている。研究テーマが一人一人の毎日の授業実践から生まれたものであるだけに年間を通して計画的に取り組んでいるということであった。そしてまた、この研究意欲が個人研究にだけでなく、学校研究に対しても自分の研究テーマの方向から深まった討議が展開されているということであった。

このことは校内研修の意欲化を図っていく上で自己研修のあり方が深くかかわっている、ということとを裏付けている例といえよう。

教師なら誰も「この子をなんとかしたい」「これはどう指導すればいいか」などの課題を抱えており、その解決策を見い出そうと努力しているわけで、この研修意欲をバネとして教育目標の具現化を支える校内研修に取り込むことによって一層の活性化を図っていききたいものである。

VI 研究のまとめと今後の課題

この研究は、昭和60・61年度の2ヶ年にわたる研究である。各年度毎の研究を要約し、今後の課題を提言したい。

1 研究のまとめ

(1) 1年次の研究について

校内研修は、学校の教育目標の具現化にかかわって必要な教職員の専門的力量的充実・向上を旨として行われるものである、という視点から県内の小学校における校内研修についての実態調査を行い分析を試みた。その結果、校内研修の現状には次のような問題点があることを提示した。

- ① 校内研修は学校の教育目標の具現化のために十分役割を果たしているか。
- ② 校内研修は教育活動と運営活動の両面にわたって、バランスよく行われているか。
- ③ 全体で行われる研修はあまり役に立っていないのではないか。
- ④ 効果的な研修の工夫や研修時間の確保等に問題がないか。
- ⑤ 校内研修についての評価が適切に行われていないので、研修したことが実践に結びつきにくいのではないか。

(2) 2年次の研究について

本年度は、前項で指摘した五つの問題点を、どのような考え方をもとに、どう改善したらよいのかについて考えてきた。そして、県内のすぐれた実践校の聴き取り調査を行い、それを解析して校内研修改善の方策を明らかにした。以下はその概要である。

① 教育目標の具現化の道筋にそって研修項目を設定する

校内研修の内容は、その学校の教育課題から導かれるものである。学校にとっての最大の教育課題は何といてもその学校の教育目標をどのように具体化して児童に実現を図っていくかということであろう。したがって、教育目標を達成させるために、教職員の専門的な力量の不十分なところを洗い出し、研修項目を設定していく、という過程を踏まなければならない。

② 校内研修における学校研究の位置づけを明確にする

学校研究は、校内研修の中から教師全体が総力を上げて意図的、計画的、継続的に進めていくものとして設定されるべきである。学校研究がどの学校でも精力的に行われてはいるが、このような立場を明確に行っているとは言い難い面がある。学校研究は校内研修の重要な一翼を担う部分ではあるが、それが校内研修のすべてではないことを確認しなければならない。

③ 研修計画の具体的な作成を工夫する

研修計画には、いつ・どこで・どのような内容で行うかということを盛り込むだけではなく、それぞれの研修項目を、誰が責任を持って・どんな形態で・どのような方法で行うのがわかるように表わすことが大切である。

④ 研修の内容に応じて形態・方法を工夫する

全体研修や学年部研修などの形態は、研修の内容はもちろん、学校の規模や研修対象者等に合わせ使い分けることが必要である。討議・実習・実技・授業研究等の方法の吟味も十分に行うことが大切である。

⑤ 研修の時間を確保する

研修のために計画されている研修時間を効果的に、しかも効率よく行うことは研修の時間を確保する上で極めて大切なことである。そのためには、研修の内容に合わせてどの方法（討議・実技・実習事例研究など）や形態（学年部研修、全体研修、グループ研修）で行うかについて十分吟味する必要がある。また、毎日の実践こそがかけがえのない研修であることを考えれば、自己研修の場を研修活動の過程にどのように位置づけていけばよいのかを検討することも大切なことである。

⑥ 実践に結びつけた研修を推進する

校内研修の実施によって、教師の力量がどのように高まり、児童の行動がどう変容しているかを見きわめることができれば、その評価は次の研修に反映されていくし、研修の内容も、より質の高いものとなっていくわけである。

研修会ごとの評価はどうあればよいのであろうか、短い周期の、あるいは長い周期の評価はどうあればよいのだろうか。第Ⅴ章校内研修の改善、において、そのサンプルを提示したところである。計画—実施—評価—計画のサイクルを踏まえることが校内研修の改善を図る重要な視点といえる。

2 今後の課題

これまで、学校経営の重点課題は、学校の教育目標の具現化をどうはかっていくかにある、との考えから4年間にわたって一連の研究を進めてきた。

(1) 学校の教育目標の設定について（昭和57年度）

(2) 教育目標の具体化について（昭和58年度）

(3) 教育目標具現化のための教職員の協力体制づくりについて（昭和59年度）

(4) 教育目標の具現化をめざす校内研修について（昭和60年度）

本年度はこれらを踏まえて、「教育目標の具現化をめざす校内研修の改善の方策」を明らかにしたのであるが、さらに、教育目標の具現化を推し進めるためには、つまるところ学校の教職員一人一人がこの学校の経営の一翼を担うのだという経営意識をどれだけもって教育実践にあたるかということであろう。

現在、教職員の経営意識がどう実情にあるのか、また、一人一人の経営意識を育てていくためにはどうすればよいのか、これが今後の課題である。

昭和62年3月20日 印刷

昭和62年3月25日 発行

発行所 山形県教育センター

〒994 天童市大字山元字大倉津2515

TEL 0236-(54)-2155

印刷所 中央印刷株式会社 天童営業所

天童市久野本四丁目15-27

TEL 0236(54)6263